

第19回  
前館港イルミネーション映画祭2013  
正式出品

大阪アジア映画祭2014  
メモリアル3.11部門  
入選

ドイツ・フランクフルト  
Nippon Connection 2014  
Nippon Visions部門  
公式出品作品

この場所で生きることは、  
罪なのでしょいか



# あいつぼうのまち

出演/夏樹陽子 勝野 洋 千葉美紅 他 監督/菅乃 廣

[www.u-picc.com/aitokibou/](http://www.u-picc.com/aitokibou/)

## 映画と歌とおしゃべりと…

夏樹陽子の主演映画とミニライブ

8/30(土) 穂の国とよはし芸術劇場 PLAT (主ホール)  
JR 豊橋駅東口より南へ徒歩5分

第1部 映画「あいつぼうのまち」

13:00 上映 12:30 開場

第2部 夏樹陽子ミニライブ「歌とおしゃべりと…」

15:20 開演 演奏/Piano, Keyboard: 大高史嗣 Guitar: Taka (TAMTAM)

前売一般 ¥3,000 前売ペアチケット ¥5,000

当日 ¥3,500 ※ペアチケットは前売りのみの販売となります。  
[全席自由]

チケット販売

プラットチケットセンター

0532-39-3090 (10:00-19:00 休館日を除く) <http://toyohashi-at.jp>

アップル・ツリー友の会 080-9481-4402

### 夏樹陽子プロフィール

三重県伊勢市生まれ、愛知県犬山市育ち。ファッションモデルとして雑誌、CMで活躍後、1977年に東映映画「空手バカ一代」でヒロインとして女優デビュー。同年「新・女囚さそり 特殊房X」で主演を演じ、以降映画出演が続く。テレビでは「吉宗評判記 暴れん坊将軍」「ザ・ハンクマン」「大江戸捜査網」など多数出演。その他にも舞台、ミュージカルなど多方面で活躍中。なお、この映画の挿入歌「咲きましょう、咲かせましょう」を歌っており歌手としても活躍している。

6/20 エッセイ『夏樹陽子 キレイの秘密』世界文化社 出版

7/5 CD『JEWEL ACTRESS』発売

9/29 NHK連続テレビ小説『マッサン』出演 放送スタート

主催/アップル・ツリー友の会 お問い合わせ 080-9481-4402  
協力/映画東雲座カンパニー



あなたときぼうのまち

福島第二原発建設予定地



作品で描かれる70年には及ばないが私も福島県双葉町で6年間暮らした。当時は反対運動もなく平穏でのどかな町での平和な家族生活があった。3.11で状況は一変、その町は廃墟と化した。おそらく住民が戻ることは不可能だろう。しかし、まるでそんなことはなかったかのように、東電と政府は原発再稼働と海外輸出にまっしぐらだ。故郷を奪われた人たちの気持ちをみんな忘れてはいないか。この映画を見て、「あいときぼうのまち」(原子力 未来の明るいエネルギー)が今どうなっているのか考えよう。タブーに真向から挑戦する画期的な作品。必見!

—— 蓮池 透 (元東電社員)

## 怒りをこめて振り返れ、あの時の事を!!

### 福島出身の菅乃廣監督と脚本家井上淳一が渾身の力を込めて描く鎮魂の物語。

『あいときぼうのまち』は、日本の原子力政策に翻弄され、傷つき、失い、絶望しながらも、それでも生きていこうとする、四世代一家族の物語。そして、3.11後の世界に生きなければならない我々すべての話である。

監督は本作が監督デビュー作となる福島県出身の菅乃廣。20数年前、死が迫っていた父親が呟いたひと言「この奇病は昔原発で浴びた放射能が原因かもしれない」をきっかけに、いつか原発を描こうと思っていた菅乃は3.11でその思いを新たに、本作を完成させた。プロデューサーの倉谷宣緒は広島原爆で祖母を亡くしており、核の犠牲者への鎮魂と原発の気持ちを込めて監督の想いを引受けた。脚本は、去年『戦争と一人の女』で監督デビューも果たした井上淳一。井上は、ノンフィクションや報道では東電と名指しできるのに、フィクションでは何故できないのかと疑問を感じこのシナリオを書いたという。この壮大なドラマの奥には、震災からたった三年で全てを忘れ去り、また新たに始めようとしているこの国への怒りが静かにたぎっている。撮影もまた福島県出身である鍋島淳裕(『ヘブンズ・ストーリー』『軽蔑』『戦争と一人の女』など)。

原発問題を扱うゆえにキャストは難航した。しかし、シナリオと監督の熱意に打たれ、有名無名を問わず、志と骨のある俳優陣が揃った。大人の恋を巧みに演じ、自らの新境地を開いた夏樹陽子(『サ・ハングマン』)と勝野洋(『太陽にほえろ!』)、大谷亮介(『相棒』シリーズ)らベテラン陣。函館港イルミネーション映画祭で「大竹しのぶの再来」と絶賛された驚異の新人、千葉美紅(『戦争と一人の女』)は震災ですべてを失った少女を切実に体現する。他に、小劇場とインディーズ映画をまたにかけた活躍をみせる黒田耕平(『アジアの純真』)、平田オリザの青年団の下部組織「うさぎストライプ」で作・演出を手がける大池容子など、バラエティに富んだ俳優陣が70年にわたる骨太なドラマを彩る。さらに、オープニング曲には坂本龍一のデビュー曲「千のナイフ」を、新鋭ピアニスト・榊原大が演奏。それぞれの想いを抱えた彼らが描く福島への過去、現在、そして未来。本年度、最も目が離せない一本であることは間違いない。



## あなたの家族の瞳には、あの頃のように明るい未来が見えていますか。

敗戦間近の1945年(昭和20年)4月、福島県石川町の山奥で天然ウランの探掘が行われていたことを知る人はあまりいない。もちろん、原子爆弾を作るためのウランだが、その探掘は学徒動員の中学生によるものだった。しかし、5月の空襲で、原爆を研究する早稲田の理化学研究所は焼け、その計画は事実上頓挫した。それでも、彼らは敗戦まで来る日も来る日もウランを掘り続けた。自分たちが何を探しているのか、知らぬままに——。東京オリンピックの二年後の1966年(昭和41年)、福島県双葉町は揺れていた。原発建設を巡って、賛成派と反対派に町が二分され、揉めていたのだ。反対派の理由は「原発は危険だから」ではなく、「住んでいる土地を奪われたくない」から、というものだった。やがて、反対派も「これで出稼ぎに行かなくて済みますよ」という説得に応じ、賛成派へと転じていった。ウラン探掘をしていた少年は大人になり、どうしても原発建設に賛成とは言えず、町の間から孤立し、酒に溺れ、家族はバラバラになっていく。2011年、その娘は小さいながらも幸せな家庭を作り、還暦を迎えていた。

そこに現れる少女時代の恋人。男は原発労働者だった息子を痛で失ったばかりだった。女は男の心の穴を埋めるために体を投げ出す。しかし、やがてそれは女の孫娘の知るところとなる。孫娘はそれをどうしても放すことができず……。そして、2011年3月11日——。津波で祖母を失った少女は、それを自分のせいだと思い込み、自らを傷つける。世間が3.11を忘れても、少女は忘れることができない。少女は自らを放すことができるのか。すべてを失った家族は再生することができるのか。



夏樹陽子 勝野洋 千葉美紅 黒田耕平 榊原大 安藤麻吹 わかばかなの 大谷亮介 / 大池容子 伊藤大翔 大島梨子 半海一晃 名倉尚 草野とおる あかつ 沖正人 / 杉山裕右 里見瑠子 笠兼三 なすび(incro) 瀧田 直  
製作・2017年7月10日 小林直之 製作・2017年 倉谷宣緒 監督 菅乃 廣 脚本 井上淳一 撮影 鍋島淳裕(USC) 照明 三原野理一郎 録音 土屋和之 美術 鈴木伸二部 衣装 佐藤真澄 編集 軽田智子 音楽 榊原大 音響効果 丹 雄二 監修 藤-VFX-4-019 石井良和  
35mm 巻頭巻軸型 4K 石野一美 VFX マリンボスト 製作「あいときぼうのまち」映画製作プロジェクト オープニング曲「千のナイフ(作曲 坂本龍一)」 挿入歌「咲きまじょう、咲かせまじょう(詞 夏樹陽子)」  
撮影協力 いわきフィルム・コミッション協議会 一般社団法人いわき観光まちづくりビューロー 監製 東宝 2017年7月10日/カラー/DCP/16:9/5.1ch/120分 ©2017 映画「あいときぼうのまち」映画製作プロジェクト  
www.u-picc.com/aitokibou/